

連載

Turbo

HAMLOGの

部屋

Turbo HAMLOG開発者
JG1MOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第13回

HAMLOGによるQSLカード印刷

今回は、Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) による QSL カード印刷についてです。

最近では、電子 QSL が増えてきたことにより JARL ビューローから届く紙の QSL カードが減りましたが、相対的に手書きの QSL カードが目立ってきたような気がします。

手書きの QSL カードに「HAMLOG 便利です。大変助かっています！」と書き添えたものが届き、ちょっと微妙ですが、うれしいものです、hi。

筆者の場合、職場にパソコンが導入されて以来、ペンで字を書くということがほとんどなくなってしまいましたので、さすがに手書きの QSL カードは無理ですが、ここは原点に返り、あらためて QSL カードの印刷について主なポイントをご紹介しますと思います。

プリンター設定のポイント

ド印刷のための基本的な設定ポイントは次のページからの4点です。

図1は、HAMLOG のオプションメニューから起動した QSL カード印刷ウィンドウです。

図2 (p.156) は、図1の QSL カード印刷ウィンドウ右下の「プリンタ設定」ボタンをクリックして表示した「プリンターの設定」ウィンドウです。

筆者の場合は、キャノンの TS8630 というプリンターを使用しています。

プリンターのメーカーによって異なる部分もあるかと思いますが、QSL カード

図1 QSL カード印刷のウィンドウ

① 用紙のサイズは “はがき”を選択する

国内向けの場合の QSL カードのサイズは、ハガキサイズ (148mm × 100mm) が一般的です。

図2のように、“はがき”を選択しておきます。

② 給紙方法は、 “はがき”がスムーズに給紙 できる方法を選択する

“はがき”の場合は、普通紙よりも少し厚みがありますので、筆者の場合は図2のように「後トレイ」を選択し、写真1のとおりプリンターの後ろ側のトレイに白紙のカードを入れています。

③ 最終ページから 印刷する設定になっていたら、 それを無効にしておく

筆者のプリンターは、購入時の初期設定では最後のページから1ページ目に向かって逆に印刷する設定となっていました。

通常は、これにより印刷完了後は1ページ目が上になり便利ですが、QSL カード印刷のときはHAMLOG 側でJARL 指定順に並び替えをしますし、途中で印刷を中断した場合など順序がわかりにくくなります。

図3は、図2の「プロパティ(P)」ボタンをクリックして表示された、キャノンのプリンターの詳細設定ウィンドウです。これはメーカーによって異なります。

図3の右上に「最終ページから印刷(M)」というチェックボックスがありま

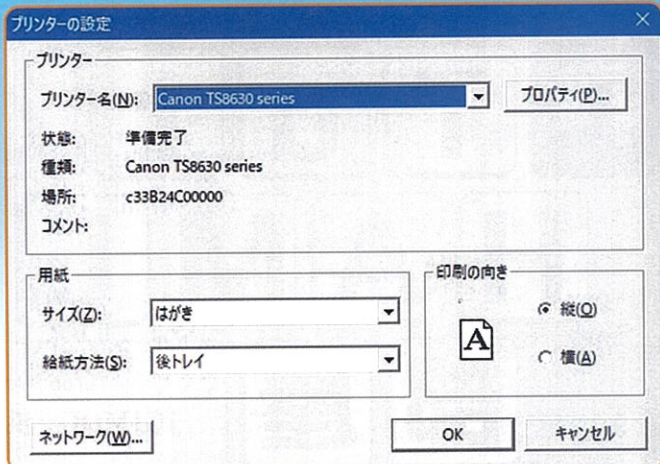


図2 QSL カード印刷のプリンター設定ウィンドウ

写真1
プリンターの後トレイ
に白紙のカードをセッ
トした状況

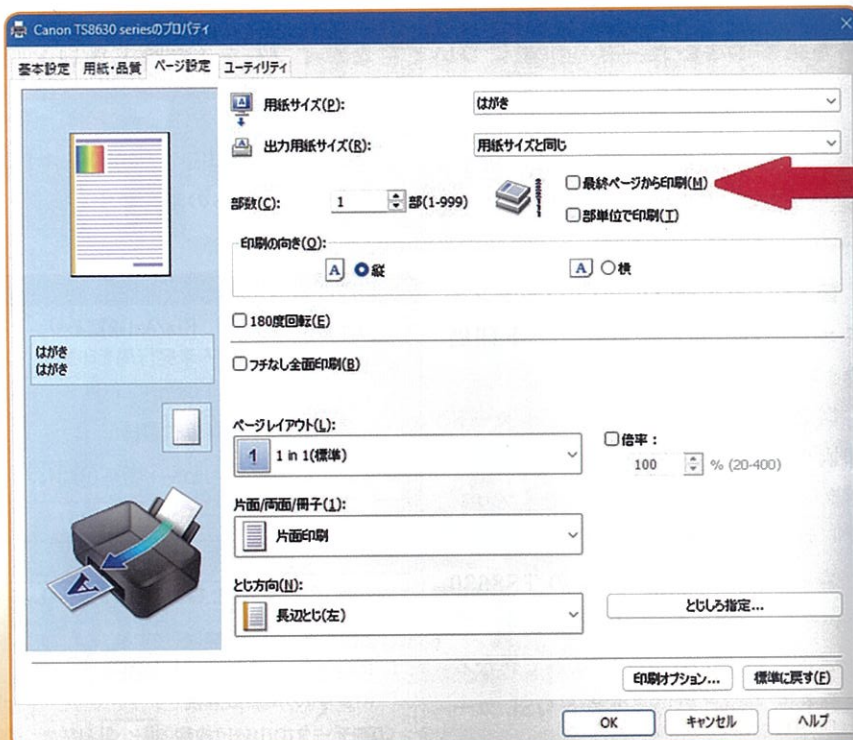


図3 プリンター設定ウィンドウの「プロパティ」ボタンをクリックして表示された、キャノンプリンターの詳細設定

すので、ここのレ点を外しておきます。これにより、HAMLOG で指定した順序で印刷することができます。

以上 3 点の設定情報は保存されるため、次回の QSL カード印刷時にはあらためてプリンターの設定をする必要はありません。

なお、QSL カード印刷以外の HAMLOG の印刷機能では、この設定情報は保存されません。

④ プリンターを買い換えたときは HAMLOG のプリンター情報を初期化する

前述のとおり、QSL カード用のプリンター設定情報は保存されていますので、プリンターを買い換えた場合など、以前のプリンターの設定情報を読み込んでしまい、印刷できないか、誤動作をします。

図 4 は、[プリンタ設定] ボタンにマウスカーソルを合わせたときのヒント表示で、設定されているプリンター名と用紙が確認できます。

図 5 は、QSL カード印刷ウィンドウ上の右クリックメニューです。

メニューの一番下に[プリンタ設定を元に戻す(I)]があり、ここをクリックすることにより初期設定に戻すことができます。

プリンターを買い換えたときは、必ずここで初期化してください。

以上 4 点がプリンター設定の主なポイントです。

QSL カード印刷定義ファイル (白紙縦.QSL)

HAMLOG による QSL カード印刷では、定義ファイルを使って自由なレイアウトで印刷ができます。

ここでは、HAMLOG に付属している定義ファイル (白紙縦.QSL) を使って、白紙のカードに印刷するときのポイントを解説します。

図 1 (p.155) の [定義ファイル (F)] ボタンをクリックすると、定義ファイルを選択して開くことができます。

図 1 では、“白紙縦.QSL” というファイル名の定

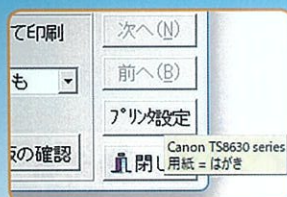


図 4
[プリンタ設定] ボタンにマウスを合わせたときのヒント表示

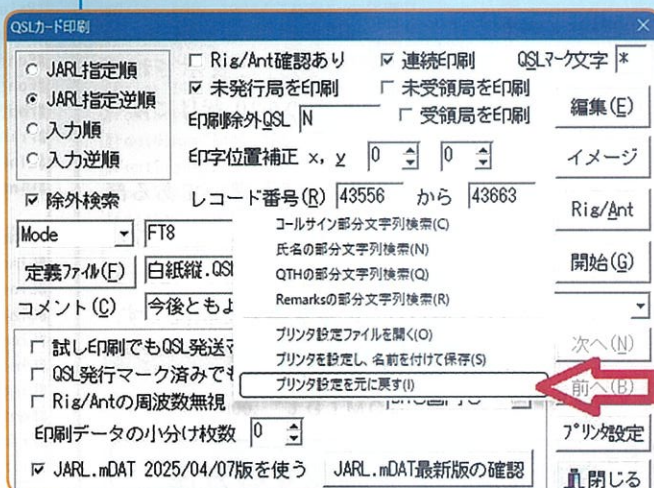


図 5 QSL カード印刷ウィンドウ上の右クリックメニュー

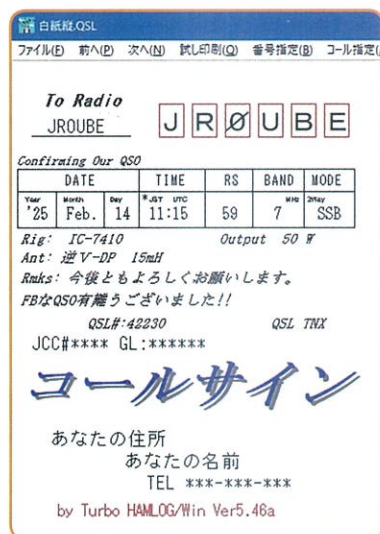


図 6 HAMLOG に付属の定義ファイル (白紙縦.QSL) の印刷イメージ

義ファイルが選択されています。

図 6 は、図 1 右上の [イメージ] ボタンをクリックして表示された印刷イメージです。

このイメージで表示されているコールサインやリグ、アンテナなどの設定を書き換えれば、そのまま QSL カードとして使える状態となります。

図 7 (p.158) は、図 1 右上の [編集 (E)] ボタンをクリックして表示された定義ファイルの編集ウィンドウです。

いろいろと命令文が書かれていてややこしいですが、そういうもんだと思ってください、hi.

自局コールサインを書き換える

図8は、定義ファイルの120行目付近です。

赤丸で囲んだ付近に[120/139]と表示されており、139行ある定義ファイル中の120行目にカーソルがあることを示しています。

全角カタカナで“コールサイン”と書いてある部分を、自分のコールサインに書き換えてみましょう。

図9は、全角カタカナの“コールサイン”を、全角英数字で“JG1MOU”に書き換えた状況です。

どのようなQSLカードになるか、印刷イメージを見てみましょう。

印刷イメージを確認する方法

印刷イメージを表示させるには、次の4通りの方法があります。

① [イメージ] ボタンをクリックして表示

図1、QSL印刷ウィンドウ右上の[イメージ]ボタンをクリックします。

② [編集(E)] メニューから表示

図10は、定義ファイルの編集ウィンドウの[編集(E)]メニューをクリックした状況で、下から2番目に[印刷イメージ(I)]があります。ここにはCtrl + Iキーが割り当てられています。

③ いきなりCtrl + Iキーを押して表示

前述のとおりメニューの[印刷イメージ(I)]にはCtrl + Iキーが割り当てられていますので簡単、お勧めです。

文字や命令文を少し書き換えたらCtrl + Iキーを押して確認する、というようにカットアンドトライで編集することができます。

④ メニューの行番号の表示部分をクリック

図10では、メニューの[123/139]のように行番号が表示されている部分をクリックすると、印刷イ

```
白紙版.QSL
ファイル(F) 編集(E) 項目(M) 命令(C) [1/139]
; 既存の白紙カードに直接印刷する。
#Mov $$D = "FT8,FT4,JT6S,JT9" ; デジタル
#FontName="MS ゴシック"
#FontSize=13
#FontColor=0
#FontStyle=3
#Print 80, 80, "To Radio"
#FontName="MS ゴシック"
#FontSize=14
#FontColor=0
#FontStyle=0
#Print 90, 150, "!cp" ; To Radio
#LineS 1,0,0
#LineX 50, 200, 270 ; To Radioに7桁のラインを引く

#LineS 2, 0, 255 ; JARL転送枠
#LineR 395, 112, 465, 205
#LineR 485, 112, 555, 205
#LineR 575, 112, 645, 205
#LineR 665, 112, 735, 205
#LineR 755, 112, 825, 205
#LineR 845, 112, 915, 205
#FontSize = 20
#Print 394, 125, "!C1" ; JARL転送枠 1文字目
#Print 484, 125, "!C2"
```

図7 定義ファイル(白紙版.QSL)の内容

```
白紙版.QSL
ファイル(F) 編集(E) 項目(M) 命令(C) [120/139]
#FontSize=42
#FontColor=8421504
#FontStyle=3
#Print 20, 810, "コールサイン" ; コールサイン全角で入力
#FontColor=16711680
#FontStyle=3
#Print 10, 800, "コールサイン"

#FontName="MS ゴシック"
#FontSize=14
#FontColor=0
#FontStyle=0
#Print 100, 1000, "あなたの住所"
#Print 300, 1060, "あなたの名前"
#Print 360, 1120, "TEL ***-***-***"
#Print 50, 740, "JCC#**** GL:*****"
```

図8 定義ファイルのコールサイン記入位置と、現在の行番号

```
白紙版.QSL
ファイル(F) 編集(E) 項目(M) 命令(C) [123/139]
#FontSize=42
#FontColor=8421504
#FontStyle=3
#Print 20, 810, "JG1MOU" ; コールサイン全角で入力
#FontColor=16711680
#FontStyle=3
#Print 10, 800, "JG1MOU"

#FontName="MS ゴシック"
#FontSize=14
#FontColor=0
#FontStyle=0
```

図9 定義ファイルの自局コールサインを書き換えた状況

メッセージが表示されます。

図11は、自局コールサインを書き換えた後の印刷イメージです。

自局 QTH などを書き換える

続いて、図11では“あなたの住所”と表示されている部分などを、自局の QTH に書き換えてみます。

図12の赤い丸で囲まれた部分です。

図13は、筆者の QTH 等を書き換えた内容です。自局の QTH、名前、JCC 番号、グリッドロケータを記入しました。

電話番号については必要がないので、左端の赤い丸の中のようにセミコロンを入れて無効にしました。

図14は、これらの文字を書き換えて Ctrl + I キー

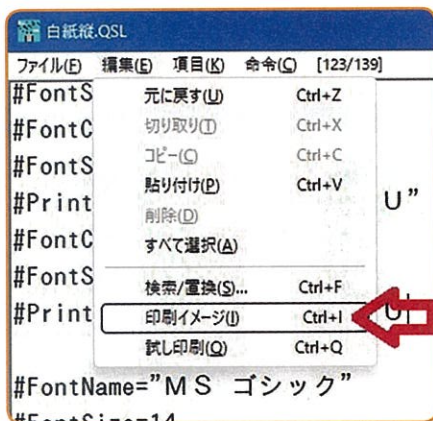


図10 定義ファイル編集ウィンドウの[編集(E)]メニュー

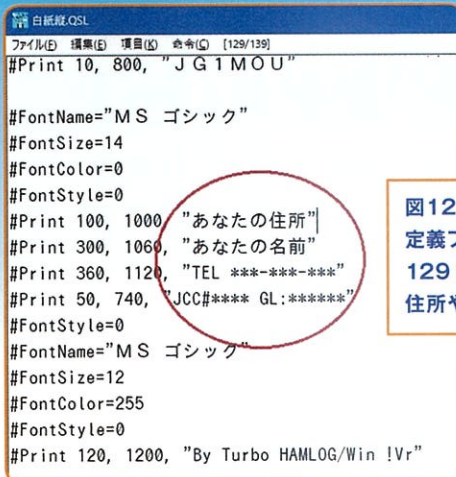


図12
定義ファイルの
129 行目付近、
住所や名前など

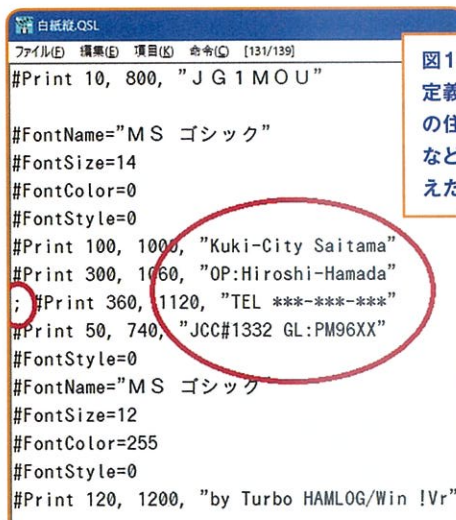


図13
定義ファイル
の住所や名前
などを書き換
えた状況

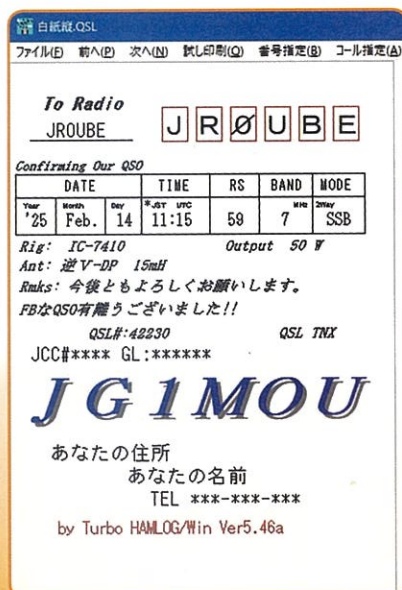


図11
コールサインを
書き換えた印刷
イメージ

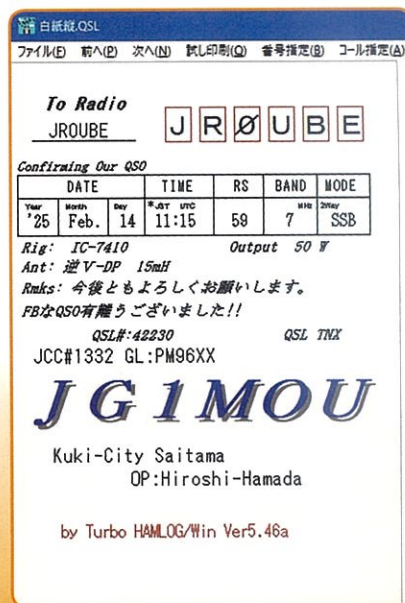


図14
住所や名前な
どを書き換え
た QSL 印刷
イメージ

を押して表示された印刷イメージです。

もうこれで十分に QSL カードだと思います。

#Print 命令についての概要

定義ファイルでは、#Print 命令で指定した文字列を印字しています。

図9のコールサインを印字する命令文は、

#Print 20, 810, "JG1MOU"です。

座標の単位は0.1ミリですので、この命令では用紙の左端から2ミリ、上端から81ミリの位置に、全角で灰色のコールサインを印字します。

その3行下のコールサインを印字する命令文は、

#Print 10, 800, "JG1MOU"です。

用紙の左端から1ミリ、上端から80ミリの位置と、ちょっとずらして全角で青色のコールサインを印字します。

灰色のコールサイン上に青色のコールサインを描き、影文字のように見えています。

コールサインの色を変えてみる

コールサインの文字色を変えてみましょう。

コールサイン(JG1MOU)は全角で二つ書かれていて、上の命令のコールサインが灰色に表示されて影のように見える部分です。

ここでは、下の命令の青色のコールサインを変えてみます。

図9の #FontColor=16711680 と記載されている部分、編集ウィンドウの121行目にカーソルを置きます。ここが文字色を指定している部分です。図15は、[命令(C)]メニューを表示させた状態で、上から2番目に[フォント色の指定(C)]があります。

図16は、メニューの[フォント色の指定(C)]をクリックして表示された色の選択ウィンドウです。

ここで、赤を選択して[OK]ボタンをクリックしてみます。

図17は、赤を指定しましたので、矢印の部分に #FontColor=0x000000FF が挿入されました。

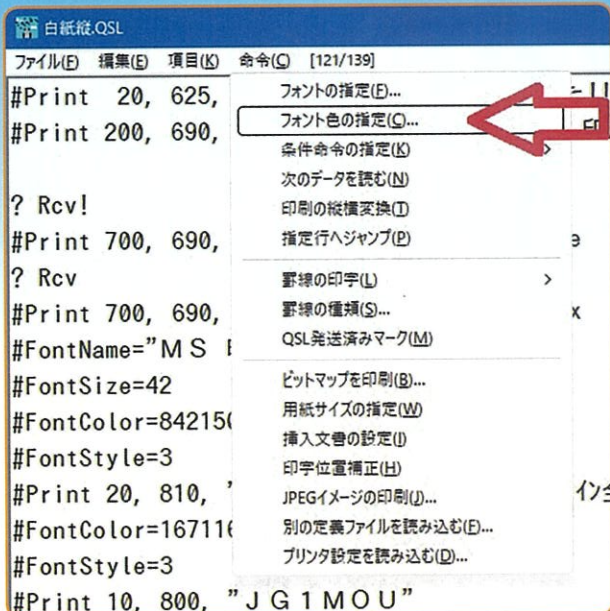


図15 定義ファイル編集ウィンドウの[命令(C)]メニュー

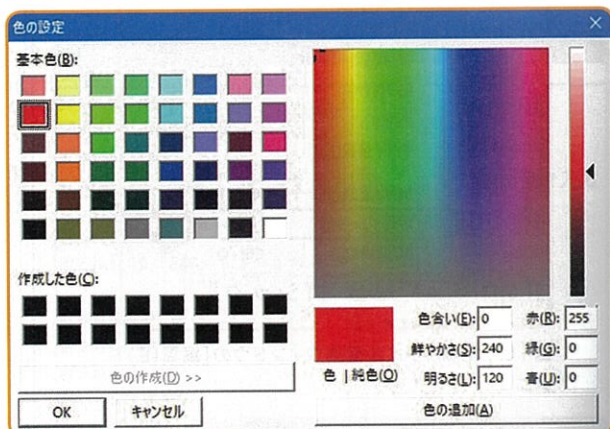


図16 文字色を選択するウィンドウ

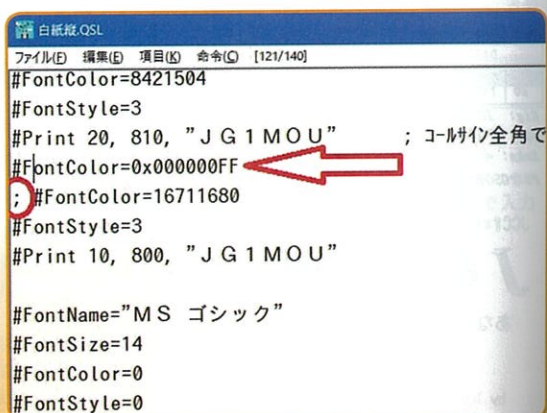


図17 赤色指定の命令文が挿入された状況

元々あった #FontColor=16711680 は、行頭を空けてセミコロンを入れ無効にしておきます。セミコロンでなくとも、空白を入れるだけで無効にできます。

#FontColor=0x000000FF から下の行の文字は、次の #FontColor 命令まで赤色となります。

この状態で、Ctrl + I キーを押してイメージを表示させてみます。

図18が、印刷イメージです。コールサインが赤くなりました。

色の値について

#FontColor 命令は、16進数、または10進数の数値で色を指定します。

どの数字がどの色に相当するかはわかりにくいのですが、16進数の場合は、0x から始まり

0x0000FF ~ 赤

0x00FF00 ~ 緑

0xFF0000 ~ 青 となります。

微妙な色を選択したい場合は、図16の文字色選択ウィンドウを使うのが良いでしょう。

定義ファイルは必ず名前を変えておく

HAMLOG に付属の定義ファイルを自分用にカスタマイズしたら、必ずファイル名を変えて保存してください。

これを忘れると、HAMLOG をバージョンアップしたときに上書きされ、せっかくカスタマイズした定義ファイルが元に戻ってしまいます。

自局のリグやアンテナの情報

図18の印刷イメージでは、筆者のリグやアンテナが表示されていますので、これを書き換える必要があります。

図19は、バンドごとのリグやアンテナ等の設定内

図18 コールサインが赤くなった印刷イメージ

No	Freq	Rig	Power	Ant	High	Rmks	Location
1	7	IC-7410	50	逆V-DP	15	今後ともよろしく	
2	144	IC-9700	50	17エレ×2	19	今後ともよろしく	
3	3.5	IC-7410	50	逆V-DP	15	今後ともよろしく	
4	50	IC-7300M	50	2エレ位相線	6	今後ともよろしく	5
5	430	IC-9700	50	G P	13	今後ともよろしく	
6							
7	7	IC-7300M	50	V型DP	5	今後ともよろしく	7
8	144	IC-9700	50	3エレシング	6	今後ともよろしく	1
9	430	IC-9700	50	6エレシング	6	今後ともよろしく	4
10	1200	IC-9700	10	G P	13	今後ともよろしく	
11	3.5	IC-7300M	50	逆V-DP	7	今後ともよろしく	3
12							

図19 リグやアンテナを登録しておくウィンドウ

容で、図1(p.155)のQSL印刷ウィンドウの[Rig/Ant]ボタンをクリックして表示されます。

図18のイメージは7MHz帯の交信ですので、1番目のリグやアンテナが表示されています。

図19のリグ等の内容は、直接キーボードで書き込むことができますし、F2キーを押せば編集モードとなって修正することもできます。

QSLカードの印刷時は、特に指定がなければ図19の上から順に、バンドが一致する内容が印刷されます。

例えば、430MHz帯の交信だった場合、5番目のリグ(IC-9700)、アンテナ(GP)が印刷されます。

それでは、次号に続きます。

©